

## 学長挨拶



国士館大学 学長  
**佐藤 圭一**

さとう・けいいち

1955年青森県生まれ

1984年国士館大学大学院政治学研究科政治学専攻博士課程修了、2006年政治学博士(国士館大学)

1984年本学に入職。2002年政経学部二部教授、2003年政経学部教授、2012年大学院政治学研究科長

同学部政治学科主任を2期(2002年から2003年、2006年から2008年)、同学部教務主任を3期(2003年から2004年、2004年から2005年、2007年から2010年)務める

2015年12月国士館大学学長に就任

2009年から宗教学会理事、2014年から比較憲法学会理事

専門はアメリカ政治史

「国士館創立101年目」の新たなスタートが切られた2018(平成30)年。日本の大学(特に私立大学)は過去に類例を見ない“厳冬期”を迎えることになりました。①18歳人口の継続的減少②入学定員超過率の厳格化③東京23区における私立大学の定員抑制など。大学の財政基盤を揺るがしかねない多くの課題が我々の面前に山積されています。大学を取り巻く環境は「保護」から「淘汰」へと転換したのです。

そもそも私立大学の存在意義は、国民の負託に応えることを目的として、「建学の精神」を体現する有為な人材を輩出するとともに、知的生産活動を通じた社会貢献にあります。情報開示が進み、誰もが等しく教育研究に関わる情報の入手が可能となった今日、国士館大学がいかなる人材を養成し、いかなる社会貢献を果たしているかについての関心がこれまで以上に高まっています。

本学では教学・法人が一体となり、教育の質保証と情報公開に努めております。①アセスメント・テスト等による学修成果の可視化②アクティブラーニング等により主体的学習を促す教育課程の編成③多くの自治体との連携協定による防災教育や健康増進プログラムの提供、活力ある街づくりへの参画などに例証される地域連携の強化など、全学的な体制の下で多様な施策が実行に移されています。

加えて、国士館大学だからこそ求められるものは、他大学の追随を許さない特色あるオンリーワンの大学になることです。幸いにも国士館には、創立者・柴田徳次郎先生や諸先輩方が築き、一世紀にわたって脈々と息づく、大切な「建学の精神」があります。「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を体現し、「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材」、すなわち公德心溢れる国士を養成するということです。これらは正しく国士館が唯一無二の大学となるための貴重な資産です。

国士館大学はこれまで培ってきた伝統に一層の輝きを添え、次の100年の更なる発展に向け、“子どもたちを入学させたい大学、学生を採用したい大学”との評価を受け続けるために努めて参る所存です。

一、霧わけ昇る陽を仰ぎ  
 梢に高き月を浴び  
 皇国に殉す大丈夫の  
 ここ武蔵野の国士館

二、松陰の祠に節を磨し  
 豪徳の鐘気を澄す  
 朝な夕なにつく呼吸は  
 富嶽嵐の天の風

三、区々現身の粗薪に  
 大覚の火を打ち点し  
 三世十方焼き尽す  
 至心の焔あふらばや

**国士館館歌**

作詞 柴田徳次郎  
 作曲 東儀鉄笛

## 学園章 全学の総意で決めた「楓」



国士館が麻布 筈 町から、世田谷の松陰祠畔に移ったのは1919(大正8)年。その前年、国士館創設の同人たちは揃って松陰神社に詣でています。激動の幕末期、思想家、教育者として峻烈な生きざまを貫き通した吉田松陰に寄せる彼らの崇敬の念は篤く、新生国士館を松下村塾の系譜を継ぐ学塾に育て上げたいと請い願ったのです。社の境内には大和魂を表す桜樹と、松陰の熱き血潮を彩った楓の古木があります。国士館高等部(現在の大学の前身)建学式の朝、創立者の柴田徳次郎は、朝日を受けて真紅に映える楓を見て松陰の赤心に思いを致し、楓を校章にと胸中ひそかに意を決したといひます。1920年の春、その思いを国士学生会(学生の自治組織)に語り、学生会もまたこれに賛同し、全学の総意によって、校章は「七生報国の士を象徴する七片の楓葉」と決まったのです。

## コミュニケーションマーク



地球を意味する円弧に歴史と将来への希望を表わすエレメントが交差して、英文表記の「Kokushikan」のイニシャル「K」を象っています。多くの人間が集い、その文化や知識、技術が“活発に交流”し、活気に溢れた国士館となるよう、社会に向かって開かれた学園、オープンでグローバルな学園のイメージを表現しています。カラーは、深紅の楓にも由来し、“情熱”や“喜び”を表すオリジナルカラーの「国士館レッド」です。1997(平成9)年の創立80周年記念事業の一環として制定されました。